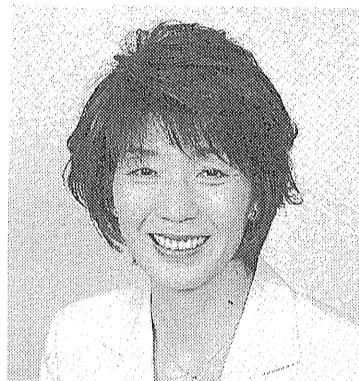


2010年(平成22年)10月4日(月曜日)

(1)

ここが 聞 きた い

〈月曜掲載〉



大阪ヘルスケアネット ワーク普及推進機構 作本 貞子理事長

大阪ヘルスケアネット
ワーク普及推進機構
作本 貞子理事①

ここが 聞きたい

〈月曜掲載〉

《運転者への健康管理
理のポイントについて》

各社が毎年実施している定期健康診断の結果を、どう生かすかが重要になります。昨今では健診の結果、再検査や精密検査が必要と思われる有所見率が50%以上といわれます。しかし現実は、再検査、精密検査を健診機関に指導されてる中で、この有所見率

するということになります。運転者の高齢化や労働環境の悪化が指摘され、今後も高まる可能性

る。この傾向には運転者の高齢化、事業競争の激化などあらゆる要因が複雑に絡み合っている。しかし事業者はこうした事態に確実に対処し、運転者の健康管理に留意しなければならない。その第一歩といえる健康診断の結果への対応が重要というNPO法人・大阪ヘルスケアネットワーク普及推進機構（OCHIS）の作本貞子理事に、前回引き続いて聞いた。

健康起因の事故防止

健康起因の事故防止

があり、健康起因事故の発生の可能性も同時に高まるなどを認識すべきでしよう。

『具体的な症状について』

事故に関連した疾患で

08年1月に、山形県の

起因事故が最も多く発生している年代です。健康診断で異常値を4個以上合わせ持つと「死の4重奏」と呼ばれ、危険度がグンと高まります。

单なる「居眠り運転」と診断で異常値を4個以上片付けられることなく、「SASによる居眠り運転」の可能性を指摘したことば、後の事故防止に大きなポイントになったた

る。息苦しく目が覚め、脳間に我慢できないほど眠くなるなどの症状もあります。

特に中堅どころとなつた年代では、仕事や家庭のストレスで暴飲暴食、睡眠不足などで体の異常値を増やしてしまいます。このまま運転すれば、あります。

最近ではメタボリックシンドromeやメンタル疾患のうつ病や飲酒依存症など複合的な事故要因も指摘があります。

運転中に意識を失っています。検査で精密検査が必要との判定が出れば、専門医で終夜睡眠ポリグラフ検査を受けます。治療ではシーパップという睡眠時の呼吸を補助する器具があります。その他では、OCHISが専門医の紹介も行っています。

SASはもはや国民病 定期健診結果を生かそう

は心臓疾患、血管系疾患、脳血管系疾患、循環器系疾患が6割以上であります。特に高血圧に留意が必要です。肥満、血糖値、脂質異常が加わり、複数の異常値を持ち合わせれば、急性心不全や虚血性心疾患による突然死のリスクが高まります。

特に40代、50代は健康国道で高速バスの運転者が意識を失い、乗客がハンドル操作してバスを停車させた事故がありました。運転者は睡眠時無呼吸引症候群（SAS）の疑いがあると判定され、東北運輸局は東北6県のバス協会に運転者の検査など体調の把握と管理を徹底するよう指導しました

《SASはどんな病気ですか》

いまや5人に1人の国民病とまで言われます。良質な睡眠がとれず、体に様々な異常を起こします。毎晩大きくなりますが、集中力の欠如、昼間に強い眠気があり、そこにはカゼによる体調不良、薬（抗ヒスタミン剤）の

ば、居眠り運転、突然の誘発など危険度は極めて高いのです。

最近ではメタボリックシンドromeやメンタル疾患のうつ病や飲酒依存症など複合的な事故要因も指摘があります。

『どのような対処が必要ですか』

突然強い眠りに襲われるSASは、簡易な検査で判定できます。スクリーニング検査といってパルスオキシメーター「パルちゃん」という検査器具を指先に装着して一晩睡眠をとります。この間のデータを解析してSASを判断します。SAS者の事故率は健常者よりも14倍高いと聞けば、適正な治療の必要性が理解できるはずです。

スクリーニング検査はバス、トラック協会で一部、または全額の助成

服用できたら眼くなり、運転中に意識を失っていきます。

SASは、一見健常でも業務のあらゆる面で負の状態を招く可能性があります。眠気にによる集中力欠如、労災、突然死、大事故。企業としては物理的な事故対策に加え、健康管理による事故防止策が最も重要なになってきました。しかも、この対策を実践したかどうかが、事故発生時の企業の社会的責任、経済的損失に大きな影響を及ぼすことにになりますから、決しておろそかにできないことを指摘しておきます。